

数少ないヒンドゥー教寺院

スリ タンディ ユッタ パニ (ベトナム)

窓も飾りもない高い塀、中の様子が全く分からない宗教施設。

小さな入口から入ると景色は一転、ミントグリーンとピンクの憩いの場に人々が集っていました。

屋上にある神々が刻まれたモニュメント



ヒンドゥーとは
インドそのものの総称

人によっては怖さを感じるかもしれません。

ところが中に入ると景色は一転します。まずは色鮮やかなミントグリーンとピンクの回廊が廻ります。回廊の壁は大きなゲートになっていて、気持ちのいい風と太陽が差し込んでくるのです。外観から想像していた圧迫感どころか、とてもかわいらしいファンタジーの世界、妖精が出てきそうなおとぎの国です。

更にここで使われている色とりどりのタイルは日本製なのです。大正時代に流行したエンボスタイルという様式、まさかベトナムのヒンドゥー教寺院で大正ロマンを感じられるとは驚きです。

ベトナムとヒンドゥー教

ベトナムでは8割を仏教徒が占め、1割がカトリック、そして残り1割の中にヒンドゥー教が含まれます。ヒンドゥーとは宗教の名称としてだけではなく、インド古来の文化、慣習などを統括して指し、まさに「インドという国、インドの人々」という広義があるのです。

ここホーチミン市は1970年代、中国人に次いでインド人が多く、後に殆どのインド人は帰還したのですが、今でも当時の面影を残す数少ない場所があります。

色鮮やかなおとぎの国

1880年に建立されたヒンドゥー教寺院、スリ タンディ ユッタ パニはホーチミン一区にあります。そこは窓も飾りもない高い塀に囲われ、中の様子は全く分かりません。入口は薄暗く、二人がやっと並んで通れるくらい。ヒンドゥー教に馴染みの薄い日本人にとっては入りづらさ、



高い塀に囲われるヒンドゥー教寺院



ミントグリーンとピンクの美しい回廊

神秘的なヒンドゥー教の神々

回廊を進むと、ヒンドゥーの象徴的な神様、象の頭と人間の体をしたガネーシャ、トラに乗る戦いの女神ドゥルガー、宇宙を創造したブラフマーなど、多くの神々に会うことができます。

クリクリした大きな目、二頭身のかわいらしい神様はジャガンナートという三兄弟です。元々はインドのプリーという海辺の町の土着神だったのが、ヴィシュヌ神の化身として、ヒンドゥー教に吸収されたということです。

インドの神様にはそれぞれ個性や、神々同士の複雑な人間関係のようなものがあって、インド神話を読むのはとても興味深いです。何とんでもインドの神様



三兄弟の神様、ジャガンナート



神々に混ざって刻まれるユニークな人々

はエキゾチックで、その表情や動物と一体となっている姿は非常に神秘的です。

そして屋上は必見です。そこには高さ5m、3m四方ほどのモニュメントが建っています。全面には神々びっしりと刻まれていて、その表情や服装は人々を飽きさせません。何故かランニングシャツに短パンの男性や、蝶ネクタイで手を振っている人など、意図は分かりませんが、変わった彫刻が混ざっているのがとても面白いです。

宗教を超えて集う憩いの場

回廊で談笑しているのは、住み込みで働いている方でした。

私はこのお寺に家族八人で暮らしています。ここにはベトナムとインドのハーフの住職がいますが、毎日いるわけではないから私たちがここの掃除や管理をしています。この辺りにも少ないですがインドの方が住んでいますし、観光で来てくれる人もいますからね。きれいに掃除してお迎えしてるんですよ。

この人は近所の人、ヒンドゥーではなく仏教徒ですよ。休憩時間になるとこうしてご近所の人たちも遊びにきてくれて、皆でおしゃべりするのを楽しみなんです。

この子は私の孫、かわいいでしょ！



宗派を超えてご近所の方々が集う憩いの場

齋藤 浩司 (さいとう こうじ)

株式会社B-WAY グループ 代表取締役

互助会から葬儀社を経て2001年同社創業。2002年に葬送支援NPO法人を創設。2010年には宗教法人を新規認証。CSR活動として、

2007年お寺で余ったお供え物を困窮世帯へ届けるフードバンクを設立。2013年からは東南アジアの貧しい子ども達への生活・教育支援を開始し、現在はカンボジアのスラムで孤児院と幼稚園を運営。活動時に各国の聖地を訪れ、宗教家や現地の人々から文化を学んでいる。東京都新宿区出身。

